



岩手県学童保育連絡協議会  
〒020-0122  
盛岡市みたけ3-38-20  
岩手県青少年会館内  
Tel・Fax 019-681-0651

## 学童保育研究集会

第四七回岩手県学童保育研究集会は十一月二〇日に盛岡市の岩手大学で開かれました。全体講演と分科会が行われ、県内の学童クラブの父母・指導員ら二七二人が会場を埋めました。

# 保護者の困難に心を寄せる

埼玉 河野伸枝氏 講演

全体講演は「子どもの思いを受け止め、育ちを考える」と題して、前全国学童保育連絡協議会副



会長・埼玉県指導員の河野伸枝氏が講演を行いました。

河野氏は「どの子にとっても学童クラブが安全で安心できる毎日の生活の場となるためには子どもたちの思いを受け止めることが大切。一人ひとり違いを持つ子どもたちは思いや感情の表し方も様々」と述べ、自身のクラブの通信を取り上げながら事例紹介をしました。この通信について河野氏



は「自分の子どもにつながる他の子どもと一緒に育ててほしい。時にはつまづき、失敗もするがそれも

子どもたちが成長していく上で大切なこと」と保護者と確認し合った上で、子どもたちの心の成長の様子を保護者と共有していると話しました。

保護者との関係については、働きながらの子育て事情の厳しさを理解し、保護者の抱える困難に心を寄せていくことの必要性を説き「親の子育ての間違いを正すというよりも、保護者の不安や悩みを和らげる支援を」

と呼びかけました。

また、保育の実践として「地道ではあるが、毎日の保育のなかで心に残ったこと、気になることを書きとめ記録(言語化)していくことが大切。それを指導員同士共有することで子どもへの理解を深め、次の保育につなげていくことができる」と記録の重要性を強調しました。

終わりに運営指針の『放課後児童支援員は豊かな人間性を備え、常に自己研鑽に励みながら』という文言に触れ「子どもたちと生きることを職業として選んだ私たちが指導員の基本姿勢は学び続けること。うまくいかないこともある、時に心が折れたりすることも多い。でも、真摯に仕事をやるから悩む。指導員の苦悩、葛藤は子どもの安心した居場所につながるはず」と会場の指導員にエールを送りました。

参加者は時に大きくうなずきながら、時にハシカチで目頭を押さえながら熱心に聞き入っていました。

## 発達障がいの子ともたちと生活をつくる

中島 留理香さん  
(盛岡市・指導員)

この度は、講師の先生に多くの実践を紹介していただきました。発達障がいの子の特技が生かされる実践や、共に生活する集団が楽しめる実践を学びました。このような活動が一人ひとりの役割や居場所を作り、発達障がいの子との関わりを作ります。関わりが変わるとお互いを思う気持ちも変わるので、今回、発達障がい個人の問題ではない、ということも学びました。周囲の排除、特別視、無関心の気持ちこそが問題なのです。

発達障がいの子に「こうなつて」と変化を求めると、先に、ありのままを認めて受け入れる生活集団を作り仲間と育ち合うことこそ、大切なのだと思えました。

## 参加者の声

### 岩手の学童保育の現状と課題

平野 明紀さん  
(北上市・父母)

①学童保育の運営形態(保護者会、自治体、シルバー、社協など)がどうなっているのか、また、それぞれどのような課題があるのか、②保護者会役員のなり手の確保や運営面での負担の実態(困難さ)、③指導員確保や対行政の取り組みの事例など、活発に情報交換が行われた。保護者会役員のなり手の確保が厳しいとされる一方で、保護者会がない自治体では改善に向けた取り組みも進まない現実。また、自治体によって取り組みの温度差が大きいことも浮き彫りとなった。各市連協では、行政に対する要望や議員との連携に力を入れており、指導員確保と施設整備、小規模クラブへの補助金確保が共通した課題である。

## 分科会